

第3回 安倍川流域委員会 議事要旨

中部地方整備局では、「安倍川水系河川整備計画（大臣管理区間）」を策定するにあたり、第2回安倍川流域委員会（現地視察）及び安倍川の現状と課題（案）等についてご意見をいただくため、第3回安倍川流域委員会を開催した。

【開催日時等】

日時：平成16年3月19日（金） 14：00～16：00

会場：日興会館ビル プケ東海 6F カトレア

【出席者】

大坪檀委員長、齋藤晃副委員長、石川たか子委員、板井隆彦委員、市川一郎委員、海野宗一委員（代理：松永信一郎副組合長）、川村美智委員、久保田妙子委員、清水孝男委員、高木敦子委員、高橋裕委員、竹内礼子委員、築地勝美委員、土屋智委員、村上敏委員、村上光司委員、村田雄剛委員、湯浅保雄委員、（遠藤幸雄委員、小嶋善吉委員、杉山恵一委員は欠席）

【議事内容】

- (1)第1回流域委員会 議事要旨について
- (2)第2回流域委員会 安倍川現地視察について
- (3)委員会の審議の進め方
- (4)安倍川の現状と課題（案）について
- (5)今後のスケジュール

【議事要旨】

1. 第1回流域委員会 議事要旨について

第1回流域委員会の議事要旨の内容について確認し、了承された。

2. 第2回流域委員会 安倍川現地視察について

第2回流域委員会で行った現地視察の意見、感想をまとめた資料について事務局から説明を行い、追加の感想などを伺った。

3. 流域委員会の審議の進め方について

今回（第3回）では、今後の審議の進め方及び現況と課題について意見をいただき、その後、各委員への個別ヒアリングを行い、第4回以降に現状と課題のとりまとめを行い、整備計画原案を提示することを事務局から説明した。

4. 安倍川の現状と課題（案）について

安倍川の現状と課題（案）について事務局から説明を行い、以下の意見、感想、質問などをいただいた。

[総合土砂]

土砂の管理については、海岸を含め上流の砂防、大谷崩と総体的に見なければいけない。

崩壊地の箇所数、面積、生産土砂量がわかると安倍川の特徴がよくわかるのではないかと。

水系一貫した土砂管理が重要だが非常に難しい。直轄区間上流や支川からの流入土砂量を、どこまで具体的に踏みこんで、如何に水系一貫をとれるのが重要で、このことに留意してほしい。県区間、砂防区間と分けるのではなく、水系一貫して合理的に対処すれば、徐々に原因もわかっていくのではないかと考える。

[治水対策]

平均河床高の上昇量は平均50cm程度であり、直轄区間の上流側では河床低下が著しいことから考えると下流側も徐々に低下してくるのではないかと。河道掘削の目的をわかりやすく説明すべきである。

安倍川の土砂の流入と流出の状況について計算を行い、将来的に安定する場所や今後の上昇等について予測ができるのではないかと。それらにより、掘削の必要性について説得力のある説明をする必要がある。

大河内では川沿いに道路があるため一貫して工事を行ってほしい。

堤防整備について1割が未整備と記述されているが、どのような理由で未整備になっているのか心配なので、その背景を知りたい。

[生物・環境]

大河内砂防えん堤の魚道は、魚の登り降りができるのか疑問である。

安倍川の生物調査をしたが、アユがいない。アユが食べる藻も付いていない。また、最近濁りが強くなっていると思う。また、瀬と淵が不安定になっている傾向があるように思う。その遠因は、上流側の土砂の大量供給にあり、それを抑えるのが一番いいと思っているが、河川整備計画に上流側の問題も盛り込むべきである。

流域の概要の中に、概略の植生区分を記載してほしい。

土地利用については、山地を人工林と天然林と分けるとその地域の概要がわかると思う。できれば、人工林は手入れ不足のものがどれくらいあるかがわかると、崩壊と関連して安倍川の特徴がわかるのではないかと。

河床を掘削している状況を見ると、「生物が生息していただろうが、何かいい方法はないのか。」と考えることが多い。

[水量・水質]

川の濁りについて、資料 - 2 意見 4 について訂正願いたい。「川の藍藻類が多いのは、川の濁りが原因であろうか」という意味である。

安倍川の流量（表流水）を資料で示してほしい。

安倍川では毎年、取水のためにブルドーザーで土砂を移動させるため、雨が降ってもなかなか水が澄まないが、濁りはどうしたら解決するのか。また、大河内えん堤から下流が濁っており、アユなどの問題だけでなく水遊びもできなくなっている。そのようなことを議論してほしい。

第 4 回流域委員会では、なぜ安倍川の水が濁るのか、水枯れの状況、網状河川で河床が上昇していること等について、一貫した議論を行ってもいいのではないかと。

[社会環境]

安倍川のことを、社会学的な見地から、川、人間、集落、生活についての安倍川の分析もあってほしいと思う。

安倍川の問題として産業も考えていく必要があるのではないかと。川を利用した産業のあり方を考える必要がある。

町名・地名というのは住民にとっては親しいものであり、それをきっかけにして、大勢の人が安倍川に興味を持ってほしいと思うので、今に残る安倍川に関係ある町名・地名を資料に残してほしい。

[情報伝達]

浸水想定区域図では市街地の浸水深が 0.5m 未満となっているが、大正 3 年洪水の写真を見ると実際はもっと浸水深があるのではないかと。河川の安全性について、例えば想定している確率雨量などを明らかにする必要があるのではないかと。

安倍川は人間の努力ではどうしようもないくらいのスケール感があり、人間が対策しても危険なことに変わりはないと思う。ハザードマップなどで、安倍川の危険性を周知させてほしい。

市と県と国が連携をとって情報を提供していくことを計画に入れてほしい。

パンフレットは、各家庭に配布するなど、多くの人に見てもらい、多くの人から意見を聞けるような配布の仕方にした方がいいと思う。

[教育]

ヘリコプターからの空撮ビデオは、高度を変えて撮影し、強調したいこと等をビデオの中で表現するとすばらしい教材になると思うので、工夫をお願いしたい。

子供たちが総合学習の中で木や植物のことを学ぶ場所をつくってもらえれば、市民が河川に出かけ、子供がその中で遊べるというような、市民と川と海の繋がりが出てくるような気がする。

[地域との連携]

地域との連携については、他にも地元で活動している団体が多数あると思う。

NPO、活動団体、学校等が、どのように安倍川と関わっているかの現状を認識して、安倍川自身を市民の暮らしの中に反映させていく方針を入れてもらうと、暮らしや町づくりという視点からもいい計画になると思う。

5 . 今後のスケジュール

次回、第4回流域委員会の日程や場所等については、調整のうえ連絡することを事務局から説明した。

以 上